

でん粉の価格調整業務実績について (平成30でん粉年度)

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、コーンスターチ用輸入とうもろこしおよび輸入でん粉から調整金を徴収し、それを財源として国内のでん粉原料用かんしょ生産者やいもでん粉製造事業者に支援を行うことで内外価格差を調整し、国内のでん粉の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、平成30でん粉年度（平成30年10月1日～令和元年9月30日〈以下「30SY」という〉）におけるでん粉の価格調整業務実績についてとりまとめたので、報告する。

なお、平成30砂糖年度における砂糖の価格調整業務実績については、本誌2月号において報告する予定である。

1. 調整金徴収業務

(1) 30SYの指標価格等

30SYの指標価格等は表1の通り。

(2) でん粉の需要と供給

令和元年9月に農林水産省が公表した30SYのでん粉の需給見通しは、表2、3の通り（詳細は、『砂糖類・でん粉情報 2019年11月号』参照）。

表1 30SYの指標価格等

	29SY	30SY
でん粉調整基準価格	154,900円/製品トン	156,900円/製品トン
指定でん粉等調整率	5.329%	4.466%

(平成30年9月28日農林水産省告示2143号)

注1：でん粉調整基準価格とは、輸入でん粉等と国内産いもでん粉との価格調整の基準となる金額。

注2：指定でん粉等調整率とは、輸入でん粉等の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。内外のでん粉のコスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

表2 でん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		平成29でん粉年度（実績）			平成30でん粉年度（見込み）			令和元でん粉年度（見通し）		
		10-3月	4-9月		10-3月	4-9月		10-3月	4-9月	
需要	糖化製品	793	943	1,737	804	982	1,786	822	992	1,814
	化工でん粉	167	156	323	159	166	325	165	165	330
	その他（製紙用、ビール用、片栗粉など）	290	324	614	284	286	570	284	299	582
	合計			2,673			2,680			2,726
供給	前年度繰越			9			12			14
	国産いもでん粉（生産量）	211	—	211	195	—	195	212	—	212
	かんしょでん粉	29	—	29	27	—	27	30	—	30
	ばれいしょでん粉	182	—	182	168	—	168	183	—	183
	調整金									
	徴収対象									
	輸入でん粉（糖化製品、化工でん粉用）	73	63	135	69	75	144	78	75	153
	輸入でん粉（その他用）	5	4	9	5	7	12	9	7	17
	小麦でん粉	8	9	17	8	9	17	8	9	17
合計			2,685			2,694			2,751	
次年度繰り越し				12			14			25
〔うち国産かんしょでん粉〕				〔 4 〕			〔 4 〕			〔 5 〕
〔うち国産ばれいしょでん粉〕				〔 8 〕			〔 10 〕			〔 20 〕

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

注2：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

表3 でん粉需給の推移

需要

(単位：千トン)

供給

(単位：千トン)

でん粉年度	糖化製品 (異性化糖・水あめなど)	化工でん粉	その他	供給				需要量計
				繊維・製紙 段ボール	ビール	畜水産 練製品	その他 (注)	
平成20	1,828	338	593	175	106	25	287	2,759
21	1,712	348	588	195	98	25	270	2,648
22	1,857	329	618	204	92	25	297	2,804
23	1,796	319	569	172	98	16	283	2,683
24	1,803	296	525	161	100	16	248	2,623
25	1,792	312	533	179	99	18	237	2,637
26	1,721	324	523	182	98	17	226	2,568
27	1,754	336	568	190	98	17	263	2,658
28	1,753	337	564	200	96	16	252	2,653
29	1,737	323	614	198	92	15	309	2,673
30 (見込み)	1,786	325	570	211	89	15	255	2,680
令和元 (見通し)	1,814	330	582	203	90	15	275	2,726

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注：その他の欄のその他は、片栗粉、菓子、麺類、調味料、建材、医薬、飼料などの需要量の計である。

ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注：供給数量は、かんしょでん粉及びばれいしょでん粉について、前年度繰越分を加え、次年度繰越分を減じている。

ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 国際相場などの動き

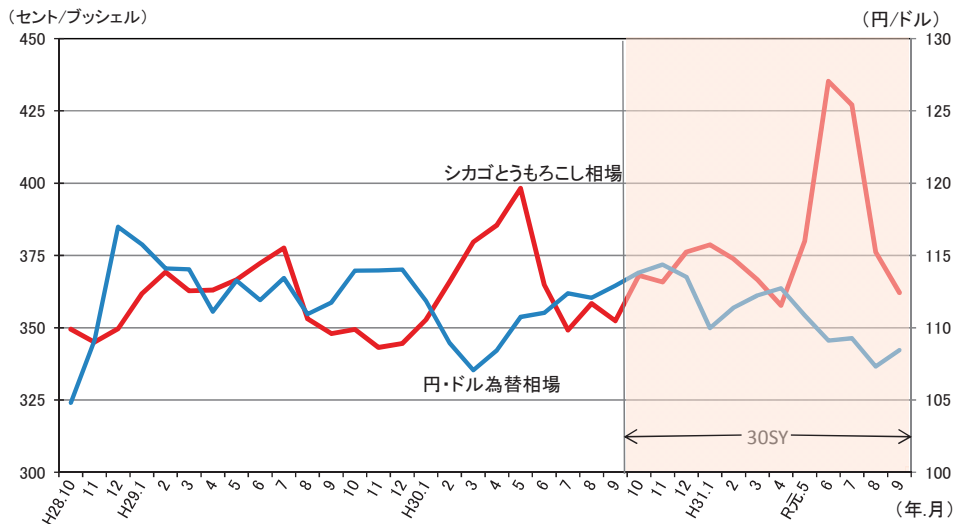
シカゴ先物相場（期近）は、ここ数年米国産とうもろこしが豊作となっていることを背景に、1ブッシェル当たり300セント台後半を中心に推移していたが、30SYにおいては、天候要因や米国農務省の需給報告などによる変動によって全体的に上昇し、350～450セントの間で推移した。

具体的な相場の動きとしては、平成30年10月平均同368セントからスタートした相場は、平成31年1～3月期は世界の期末在庫が上方修正された後に米国中西部の作付け遅延懸念が出たことから四半

期平均では同370セントと同水準であった。しかし、令和元年5月に米国中西部で悪天候が続き、大幅な作付け遅延が生じたことから相場は6月に平均同435セントまで上昇した。その後、米国中西部の天候が改善するという予報および米国農務省による作付面積の拡大と作柄の改善が報告されたことにより、9月には同360セント近くまで下落した。

一方、米ドルの為替相場は、前年からの1ドル110円台前半の水準でスタートしたものの、年度半ばから円高傾向となり、同100円台後半で推移した。

図1 米国産とうもろこしのシカゴ先物相場および為替相場の推移



(4) 指定でん粉等の平均輸入価格等

30SYにおける指定でん粉等の平均輸入価格等は表4の通り。

表4 指定でん粉等の平均輸入価格等

	平均輸入価格 (円/トン)	でん粉 (円/トン)			とうもろこし (円/トン)			とうもろこしシカゴ相場		為替 (円/ドル)	
		買入価格	売戻価格	調整金単価	買入価格	売戻価格	調整金単価	(ドル/BU)	(ドル/トン)		
28SY	平成28年 10月～12月	53,290	53,290	58,996	5,706	30,432	34,312	3,880	3,3484	131.82	103.53
	29年 1月～3月	58,110	58,110	63,536	5,426	33,625	37,315	3,690	3,4654	136.43	108.92
	29年 4月～6月	60,530	60,530	65,815	5,285	35,166	38,760	3,594	3,6399	143.30	115.27
	29年 7月～9月	59,530	59,530	64,873	5,343	34,588	38,221	3,633	3,6738	144.63	112.12
29SY	29年 10月～12月	57,580	57,580	62,766	5,186	33,952	37,479	3,527	3,5995	141.71	111.93
	30年 1月～3月	58,670	58,670	63,798	5,128	34,506	37,993	3,487	3,4598	136.21	113.92
	30年 4月～6月	59,200	59,200	64,300	5,100	35,012	38,480	3,468	3,6424	143.39	110.01
	30年 7月～9月	61,140	61,140	66,136	4,996	36,587	39,985	3,398	3,8580	151.88	109.80
30SY	30年 10月～12月	61,090	61,090	65,369	4,279	37,419	40,329	2,910	3,5256	138.80	112.25
	31年 1月～3月	61,890	61,890	66,133	4,243	37,969	40,854	2,885	3,6884	145.21	114.07
	31年 4月～6月	61,280	61,280	65,550	4,270	37,507	40,411	2,904	3,7325	146.94	111.16
	令和元年 7月～9月	61,750	61,750	65,999	4,249	37,724	40,614	2,890	3,8467	151.44	111.20

(5) 売買実績

30SYの売買数量は、輸入でん粉が前年度比4.6%増の14万トン、でん粉供給量の大半を占めるコーンスターチ用とうもろこしが同0.3%減の338万トン、売買差額は、輸入でん粉が同12.8%減の6億円、コーンスターチ用とうもろこしが同16.7%減の98億円で、合計では同16.5%減の104億円となった(表5)。

30SYの輸入でん粉の売買数量が前年に比べて増加した主な要因は、でん粉を原料とする異性化糖の清涼飲料や酒類への需要が増加傾向にあることによる。一方、30SYのコーンスターチ用とうもろこしの売買数量はほぼ横ばいとなった。また、売買差額が減少した主な要因は、前年の同期間に比べ、平均輸入価格が上昇したことに加え、調整率の引き下げによって、調整金単価が下がったことによる。

表5 指定でん粉等の売買実績

SY	輸入でん粉		コーンスターチ用 とうもろこし		売買差額 合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
28	143	773	3,340	12,339	13,112
29	135	691	3,387	11,738	12,429
30	141	602	3,375	9,779	10,381

2. 交付金交付業務など

(1) でん粉原料用いもおよび国内産いも でん粉の生産動向

ア. でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょ でん粉

北海道のばれいしょ生産は、作付面積、単収ともにおおむね平年並みで推移しており、収穫量は多少

の増減はあるものの約180万トンで横ばい傾向にある(表6)。なお、その4割程度がでん粉原料に仕向けられる。

平成30年産について、令和元年9月の農林水産省の需給見通しでは、夏場の低温、日照不足および大雨などにより小玉傾向となったことなどから、ばれいしょでん粉生産量は、前年比7.7%減の17万トンとなった。

表6 でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょでん粉の生産動向(北海道)

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	うちでん粉 原料用の生産量 (千トン)	でん粉生産量 (千トン)
28	51.2	3,350	1,715	701	151
29	51.3	3,670	1,883	783	182
30(見込み)	50.8	3,430	1,742	731	168

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

イ. でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉

でん粉原料への仕向け量は、高齢化などにより作付面積および生産量は減少傾向にある(表7)。

平成30年産について、令和元年9月の農林水産省の需給見通しでは、台風24号による塩害やサツ

マイモ基腐病(立枯症状や塊根部分が腐敗する症状)が発生したことから、かんしょでん粉生産量は前年比6.9%減の3万トン弱と2年連続で過去最低を更新した。

表7 でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉の生産動向（南九州）

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	うちでん粉 原料用の生産量 (千トン)	でん粉生産量 (千トン)
28	15.6	2,663	415	129	39
29	16.6	2,386	372	100	29
30（見込み）	15.7	2,346	369	92	27

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

（2）交付金の交付状況など

ア. でん粉原料用いも交付金（でん粉原料用かんしょのみ）

収穫期はおおむね9月から12月ごろまでであり、いもでん粉製造事業者への売渡しを行ったものに交

付金を交付している。

平成30年産については、病害によるでん粉原料用かんしょの減産を受けての交付金額は前年比8.0%減の24億円となった（表8）。

表8 でん粉原料用いも（かんしょ）交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)
28	26,000 (23,410)	129	3,357
29	26,000 (23,410)	100	2,592
30	26,000 (23,410)	92	2,383

（注）交付金単価は、アリアケイモ、コガネセンガン、コナホマレ、こなみずき、サツマアカ、サツマスターチ、シロサツマ、シロユタカ、ダイチノユメ、ハイスターチおよびミナミユタカのもので、括弧書きはその他の品種である。

イ. 国内産いもでん粉交付金

ばれいしょでん粉およびかんしょでん粉の販売は年間を通じて行われ、販売したものに依りて交付金を交付している（表9）。

（ア）ばれいしょでん粉の交付状況

30SYの交付実績は、交付決定数量は前年同期比3.7%減の9万トン、交付金額は同2.4%減の16億円と数量および金額ともに

減少した。

（イ）かんしょでん粉の交付状況

30SYの交付実績は、交付決定数量は前年同期比13.9%減の3万トンとなった。交付金額は、交付金単価が引き下げられた（2606円減額）こともあり、同18.5%減の10億円と減少した。

表9 国内産いもでん粉交付金交付決定実績

SY	ばれいしょでん粉			かんしょでん粉		
	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)
28	15,325	101	1,550	32,275	38	1,230
29	17,731	96	1,685	37,460	32	1,169
30	17,717	93	1,644	34,854	27	953

(3) 国庫納付金納付業務（でん粉原料用ばれいしょ）

でん粉原料用ばれいしょ生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、30SY（発生ベース）においては、農林水産大臣からの通知に従い、調整金収入から52億円を国庫に納付する予定である（表10）。前年度より大幅に減少した主な要因は、調整金単価の下落により調整金収入が減少したことによる。

表10 国庫納付金納付実績の推移

SY	国庫納付金額 (百万円)
28	6,469
29	6,261
30（見込み）	5,246

(4) でん粉の価格調整業務における収支（見込み）

30SYの収入は、前年度と比較して、飲料向け異性化糖の需要の増加傾向に伴いでん粉の売買数量は増加しているものの、指定でん粉等調整率の引き下げなどにより調整金単価が大幅に下がったため、調整金収入は20億円減少となる104億円と見込まれる（表11）。

30SYの支出については、ばれいしょでん粉の交付金単価および交付決定数量はわずかながら減少したものの、おおむね前年並みで交付金額は16億円

表11 30SYの収支前年比較

(単位：億円)

	28SY	29SY	30SY (見込み)	対29SY 増減
収入	131	124	104	▲20
支出	126	117	102	▲15
ばれいしょでん粉	15	17	16	▲0
かんしょでん粉	12	12	10	▲2
ばれいしょ（国庫納付）	65	63	52	▲10
かんしょ	34	26	24	▲2
単年度収支	5	7	2	▲6

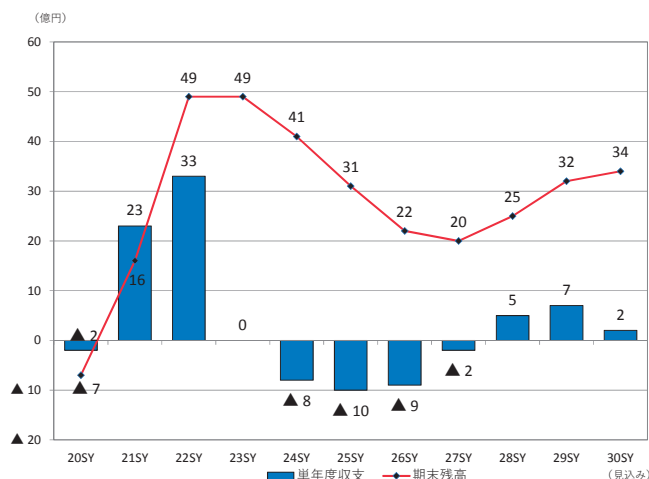
注：ラウンドの関係で増減などが一致しない場合がある。

とされ、かんしょでん粉は、交付金単価の引き下げと交付決定数量の減少により交付金額は10億円となった。でん粉原料用かんしょも交付金単価に変動はないが交付決定数量の減少を受けて交付金額が減少し24億円とされ、でん粉原料用ばれいしょの支援は国の経営所得安定対策により行われているが、この財源として支出する国庫納付金は上記のように調整金収入の減少などを受けて納付額も大幅に減少し52億円となった。これらの結果、支出合計は前年度より15億円減少し、102億円と見込まれている。

なお、30SYを通して、調整金収入は、交付金交付および国庫納付金納付等の支出を償ったことから短期借入金が発生しなかった。

以上の結果、30SYにおける調整金収支は、2億円の黒字（前年度は7億円の黒字）と見込まれる（図2）。

図2 でん粉の調整金収支の推移（30SY）



注：端数処理の関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。